

産学連携の手引き

国立大学法人 千葉大学

学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)

Academic Research & Innovation Management Organization (IMO)



このような時は千葉大 IMOにお任せ



学術研究・イノベーション推進機構長
研究担当理事
藤江 幸一

千葉大学は、研究支援・産学連携機能の強化とイノベーション創出を加速する目的で学術研究・イノベーション推進機構 (Academic Research & Innovation Management Organization: IMO) を設置しました。

IMOでは研究推進部とリサーチアドミニストレーター (URA) が連携して最先端研究の推進を支援するとともに、企業等とのコーディネート活動等の一層の強化によって、社会価値創出のための様々な取り組みを実施する体制の整備と強化を実現して参ります。

皆様からのご相談については、各分野の専門知識を有するURAと大学スタッフが連携してご対応させていただきます。

IMOスタッフは、各業務所管のプロフェッショナルな実務者です。

学術研究支援・強化のための
3要素としての3チーム

学術研究基盤支援部

1. 研究 IR / 科研費サポートチーム
2. 研究広報 / 情報収集チーム
3. Pre Award チーム

研究成果の知財化としての
2要素としての2チーム

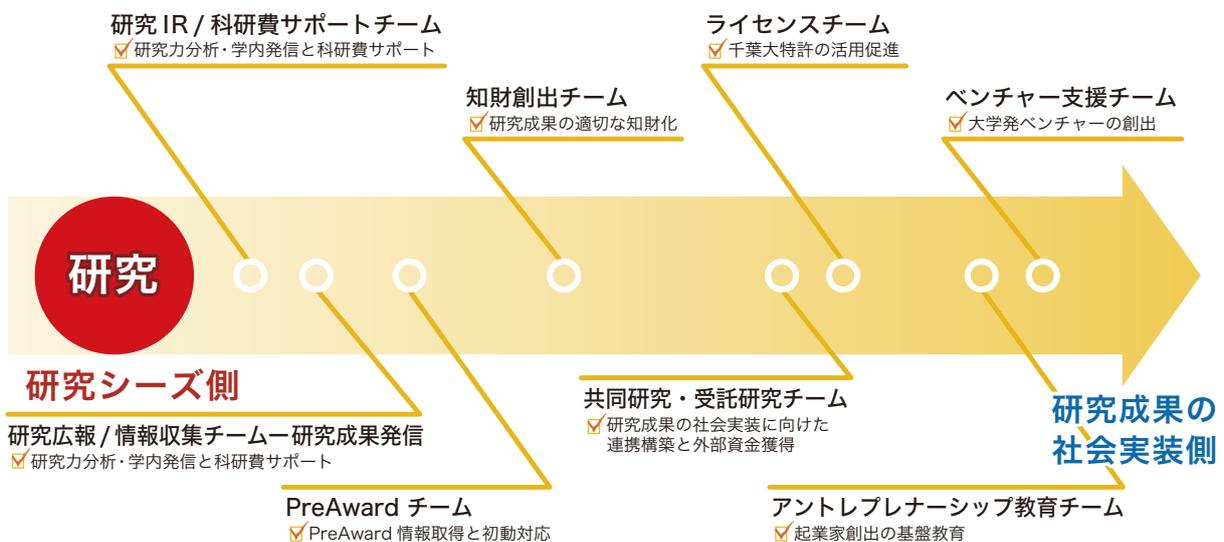
知財・技術移転部

1. 知財創出チーム
2. ライセンスチーム

研究成果の社会実装としての
3要素としての3チーム

プロジェクト推進部

1. 受託・共同研究チーム
2. ベンチャー支援チーム
3. アントレプレナーシップ教育チーム



ください

IMOは、研究で得られた技術シーズを地域・産業界へ積極的につなげ、企業様等の研究・開発パートナーとして、我が国のイノベーション創出に貢献します。



産学連携サポートに関する詳しい情報については、ホームページをご覧ください。



産学連携サポートの一例

A

技術相談、学術指導

企業様が直面する技術的な問題に対し、適した教員・研究者を紹介し、個別の相談にお応えする制度です。

ご相談内容

新事業の立上げ、新製品・新技術開発や生産技術・工程の改善、製品の品質や機能・性能の科学的評価等、様々な技術開発のご相談に応じます。まずは気軽にご連絡ください。

期

間

ご相談内容や対応する研究者のスケジュールによります。

B

共同研究

企業様や自治体様等が持っている技術力等と本学の教員が持つ研究能力を結集し、共通の課題について共同で研究を実施することにより、優れた研究成果を挙げる制度です。

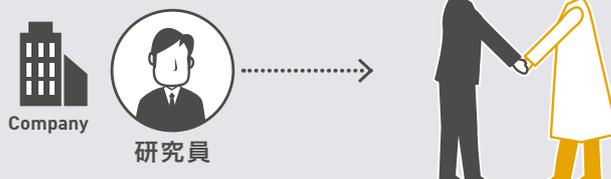
主な経費

- 直接経費
- 間接経費
- 外部機関共同研究員

期

間

1年から5年程度で期間を設定できます。



知的財産権の取り扱い

共同研究契約書に基づき定められますが、原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。

C

受託研究

企業等からの委託を受けて本学の教員・研究者が研究する制度です。

主な経費

- 直接経費
- 間接経費

期

間

1年から5年程度



知的財産権の取り扱い

発明等を創造した場合の知的財産権は、本学または本学の教員に帰属することになります。

D

共同研究講座・共同研究部門

企業等からの資金・人材提供により、大学内で共同研究をする組織を設ける制度です。

主な経費	<ul style="list-style-type: none"> • 直接経費 • 間接経費 • 外部機関共同研究員
期間	原則として2年以上5年以下としますが、更新も可能です。
知的財産権の取り扱い	原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。本学と外部機関に所属する研究者が共同で発明等を創造した場合には、本学と外部機関が協議して知的財産権の持分を定め、共有の知的財産権として出願等を行います。



E

知的財産情報・知財ライセンス

本学が保有する知的財産の活用を希望する企業様へ、その知的財産の技術移転や更なる共同研究等により、企業様のビジネスへの活用をサポートいたします。

- 保有する知的財産情報の開示（イノベーションパートナーへは優先開示）
- 関心のある知的財産のライセンスに向けたご相談
- 知的財産を核とした更なる共同研究等のご相談



共同開発
 (連携先：(株) 石原産業)
 青色コチョウラン：企業様が単離に成功した青色の遺伝子を使い、本学研究室が4年かけて開花を実現。



共同研究+共同発明
 (連携先：(株) 前川製作所)
 ロボット制御技術を用いて自動で食肉を処理するシステムを本学研究室と企業様の共同で研究・特許取得



ライセンス
 (連携先：(株) 新越ワークス)
 複数品目同時加熱を行う形態調理用具のデザインを本学研究室が開発。そのライセンスを企業様に許諾。



知的財産情報



知財ライセンスフロー

詳しい情報については、ホームページをご覧ください。

多彩なサポート

F

イノベーションパートナー制度

パートナー企業様との協働で、社会の課題解決に向けた新たなイノベーションを創造するために創設しました。パートナー会員様は、知財の事業化支援、コンシェルジュ支援、人材育成サポート等本学IMOのURAによる個別支援を受けることができます。



正会員 全ての会員特典が受けられます。

年会費 大企業：100万円（年度額）、中小企業：30万円（年度額）

準会員 IMO主催イベントのご案内と技術シーズの情報提供特典のみ受けられます。

年会費 無料

※年度は4月1日～3月31日を単位

イノベーションパートナー制度の詳しい情報については、ホームページをご覧ください。



G

スペース利用・共用機器

大学の所有する施設や大型実験機器をご利用できます。

ご利用頂ける
施設

- IMO棟オープンスペース
- 知識集約型共同研究拠点 (Knowledge-based Collaborative Research Center: KCRC)
- サイエンスパークセンター (Chiba University Science Park Center: CSPC)
- 共用機器センター



IMO棟Ⅰ 1階イベントルーム (234㎡)



IMO棟Ⅱ 1階オープンイノベーションスペース (209㎡：Web会議ルーム含む)

スペース・機器利用に関する詳しい情報については、ホームページをご覧ください。



金融機関様の コーディネーター との連携

千葉大学は、金融機関様から研究促進コーディネーターを派遣していただいています。IMOのURAと連携して、千葉大学の研究成果や教員の知見（シーズ）と各金融機関の取引先企業等の要望（ニーズ）のマッチング及びこのマッチングを通じた共同研究を促進します。
詳しくはコーディネーターにご相談ください。



ベンチャー創出支援

研究者・学生のアントレプレナーシップを醸成して、起業できる人材を育成するベンチャー支援のさらなる充実と拡大を目指しています。

- アントレプレナーシップ教育プログラムの提供
- 自治体、民間企業と連携した豊富なアクセラレーションプログラムの展開
- 学内独自のGAPファンドプログラムの提供（事例：なのはなコンペ）
- イノベーション空間の提供（事例：スタートアップカフェ）



千葉大学独自の学内ギャップファンドプログラム「なのはなコンペ（学内ビジネスコンテスト）」



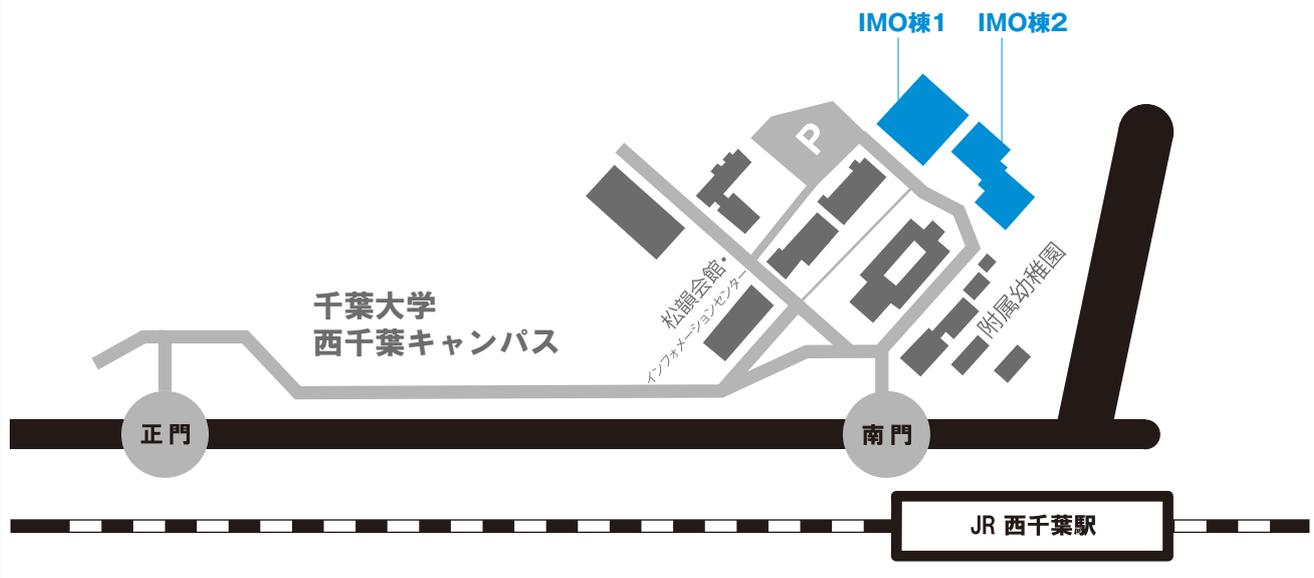
学生起業サークル CHIBA START-UP COMMUNITY (CSC) と本物の起業家が触れ合う「スタートアップカフェ」

ベンチャー創出支援の詳しい情報については、ホームページをご覧ください。





学術研究・イノベーション推進機構



国立大学法人 千葉大学
学術研究・イノベーション推進機構 (IMO)

Academic Research & Innovation Management Organization (IMO)

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学 西千葉キャンパス内 IMO 棟I・II

Tel: 043-290-3048 Fax: 043-290-3519

Website: <https://imo.chiba-u.jp/index.html>

Email: ccrcu@faculty.chiba-u.jp

